



飼料稲収穫

# 問 火災予防の組織化は

## 答 自主防災組織の強化を

**Q** 住民不安の払拭に向け、地域や関係機関との連携をどう進めるのか。

**A** 町長  
警察と消防団の連携で警戒、予防啓発に努める。

**Q** 地区パトロール組織と消防後援会が連結

した防火連絡協議会の立ち上げ、予防啓発を図る組織と助成を。

**A** 町長  
23自治振興会で81%の加入率である。

**Q** 学校給食は相次ぐ食料費と燃料費の上昇で問題は無いのか。

**A** 教育長  
中国産食材の安全性や偽装問題の中、安全管理に努めている。影響もあり、値上げも考えられるが、まずは、



村上克朗議員

コスト削減に努め、地元産牛乳は使用する。

文科省が定めている、栄養量を満たせるのか。給食費の値上げや、地元産の牛乳の使用は。

**A** 町長  
使用者負担が原則、住民意識の変革で相互の負担を検討する。働く場所を確保するため、農業法人の推進や定住・企業

**Q** 「今後は使用料・分担金の見直しで、自主財源確保が重要な課題」というが、「貧すれば鈍する」若者が働く意欲や活力が無くなる。殖産興業への取り組みは。

**A** 町長  
部分的にはムダが生じており、研究する必要がある。反省して今後の工事な

誘致にあたるサポート係を設ける。

**Q** 国の「頑張る地方応援プログラム」では、地方交付税などの財政支援に加え人材の育成・活性化を支援する。本町の対応は。

**A** 町長  
全般的に産業課を中心に進め、安全性の高い、食糧供給に努める。



油木交番

# 問 無駄を廃し、節約の徹底を

## 答 反省しチェックしたい

**Q** 財政健全化の柱は「3つの過剰の解消」であるが、「無駄」を廃し「節約」の徹底も大切なことで検証が必要だ。また職員の意識改革も大切だが実情は。

**A** 町長  
詳細なことは分からないが、無駄はある。金額的には大したものではない。

**Q** 事務的な努力は認めるが、工事などハ



瀬尾征爾議員

「補助金も税金」という認識が甘いのではないか。

**A** 副町長  
部分的にはムダが生じており、研究する必要がある。反省して今後の工事な

**Q** 目標達成に単町費の原資補助はできないか。

**A** 町長  
補助制度の見直しがあり、小規模法人も適用されるのでそれで対応

どチェックしたい。

**Q** 農業法人組織化の目標数は。

**A** 町長  
18〜22年度の間は14法人の組織化を目指している。

きると思っている。

**Q** 小規模法人組織化と連動して農業公社の分割民営化は。

**A** 町長  
公社の独立採算は大原則であり、公的資金投入など諸々の整理があり、時間が必要である。

# 問 油木高校の実態は

## 答 卒業生全員が希望の進路へ

**Q** 昨年は49%であった地元中学生の油木高校への志願率が60%に近いと聞いている。卒業生は、各々の希望コースに続々と合格しているとも聞いている。

学校の進路指導の熱意・教育長を始め、教育委員会の取り組み努力等々の成果であり、評価に値する。

**A** 19年度の油木高校への地元生の志願率は58%と目標に近い数字となった。

これは産業ビジネス科への伸びが要因であろうと思う。

また今年度の大学進学も国公立へ前期の発表があり、2名が合格し、現在では合計8名となっている。

今後、中期後期の発表もあり、結果によっては増えることも予想され、進学や就職すべての生徒が決定・内定している。

これも油木高校の学校経営と、生徒の努力の結果が表れたものと思つている。今後も高校と中学校の連携を密にし、油木高校への地元生の進学率の向上と油木高校の充実発展に邁進して参りたい。



小林 貢議員

# 問 神石三和病院を「県立」で存続を

## 答 公設民営の方向で

**Q** 新町発足当初、あくまで「県立」での存続を求めた。

だが、県は「地元移管」を譲らない。

3月6日「病院機能あり方検討委員会」が最終報告を提出。報告書はパーフェクトと思う。

2月19日、三和地区の町議全員が、岡崎県議を紹介者に「小島バイパス早期完成」の陳情で、県庁に行った。

そのあとで、県議が病院担当者呼び、話をされた。

要点は借金200億円を抱え、病院経営のノウハウが全くない町は運

営できない。県立病院の「独立行政法人化」をやるべきだ。

県議の考えどおり進めば「県立」での存続も可能では？

町長

県議の言われる「独立行政法人化」ができるならばベター。早い時期

に県議と会い、協議する。現段階では、あり方委員会の報告を重く受止め、「公設民営」の方向で、間違いない最終決断を早期に下したい。

一工区の地権者と接触したが、思いに添って頂けない。県との交渉で二工区は、一時休止扱いになっていたが、継続となった。一工区・二工区トータルでの工事着手を要望し、理解を取りつけた。小島バイパスの完成は、町としても最大級の課題として取り組む。



片山元八郎議員



広報委員研修 (砥部町)



小島バイパス工事

町長

1月26日吉舎油木線で2件目の死亡事故が発生。児童の通学も極めて危険。小島バイパスの早期完成を望む。

町長

一工区は、一時休止扱いになっていたが、継続となった。一工区・二工区トータルでの工事着手を要望し、理解を取りつけた。小島バイパスの完成は、町としても最大級の課題として取り組む。

町長

一工区は、一時休止扱いになっていたが、継続となった。一工区・二工区トータルでの工事着手を要望し、理解を取りつけた。小島バイパスの完成は、町としても最大級の課題として取り組む。